

4 3 . 岐阜県の気候 (1)

実験の概略

岐阜県の高度別に塗り分けることにより、岐阜県の地形の特色を理解する。また、4 地点の月別降水量と月別平均気温のグラフを作成することで、岐阜の気候の特色や地形との関係を理解する。

実験のねらいと位置づけ

この実験は指導要領の「(3) 多様な生物と自然のつりあい ア 地表の姿と大気」の中に位置づけられるものである。

気象を学習する上で、郷土の気候の特色を理解し、関心を持つことは、普段の生活を科学的に育てる態度を育てる上でも重要である。この実験では、岐阜県の地形の特色や、岐阜県の各地域の気候の特色、両者の関係を考えさせるのがねらいである。

指導上の留意点

1 . 方法について

- (1) 高度別に塗り分ける際に地図帳などを参考にするとよい。
- (2) 4 地点の年変化のグラフを作成する際には、月降水量が右側の目盛り、月平均気温が左側の目盛りを使用することを確認するとよい。
- (3) 特色をまとめる作業では、様々なことが書かれると予想される。ここでは、生徒に正確な答えを求めることなく、データから自分なりの視点でいろんな意見を表現する姿勢を育てたい。

記入例

1 . 岐阜県の気候と地形の特色を把握する。

- (1) 右図参照

- (2) 図 43 - 1 より、岐阜県の地形の特色をまとめる。(平野、盆地、山脈の位置など)

岐阜の東側や、飛騨地方の西側には、高度 1500m を超える高い山脈がある。

分水嶺から離れるにしたがって、高度が低くなる。

美濃地方の大半は 500m 以下の平地である。

飛騨地方は高度 500m を超えているところが多い。

高山を中心とするところや白

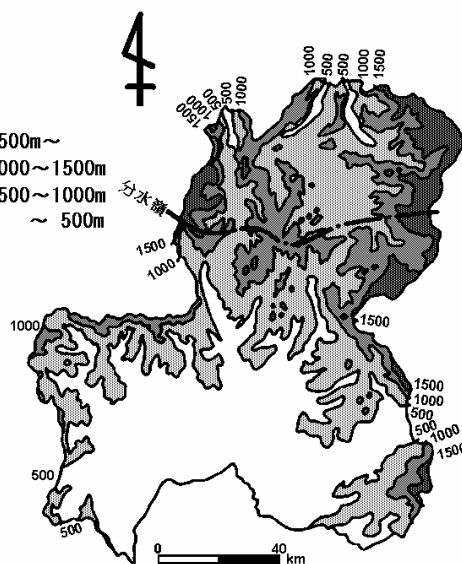


図 43 - 1 岐阜県の地形

川を中心とするところに盆地が見られる。

2. 岐阜県内各地の月別降水量と月別平均気温の特色を理解する。

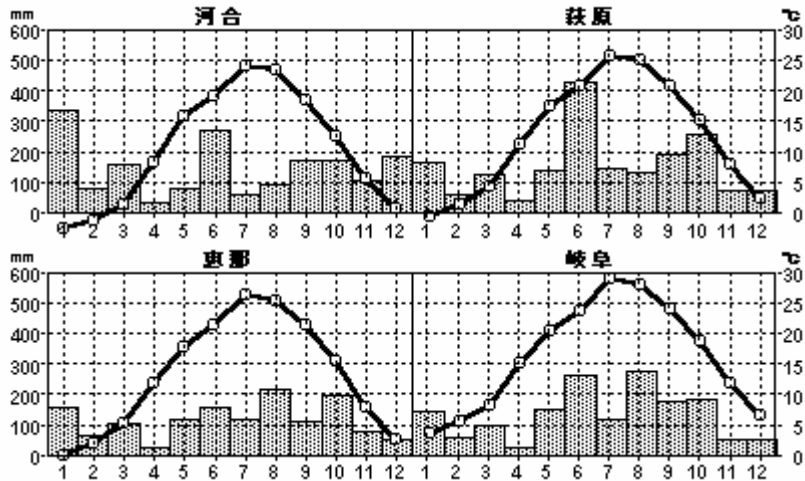


図 43 - 3 各地点における月降水量，月平均気温の推移

(1) 図 43 - 3 の各地点の降水量と気温の推移の特徴を図 43 - 2 を参考にして比較してみよう。

(降水量)

- ・ 河合：冬の時期に降水量が他の地域に比べ多い。これは積雪によるものを考えられる。
- ・ 萩原：梅雨の時期や秋雨の時期などに降水量が多い。
- ・ 恵那：全体的に他の地域と比べ、降水量が少ない。
- ・ 岐阜：夏の時期に降水量が多く、冬の時期に少ない。

(気温)

- ・ 4 地点とも月平均気温の年変動の様子は似ている。
- ・ 気温の値は、河合 < 萩原・恵那 < 岐阜である。
- ・ 岐阜と河合の気温の違いは、一年を通して河合が岐阜より約 5 度低い。

3. これまでの考察と図 43 - 2 (表 1) を参考にして、岐阜県の気候の特色をまとめてみよう。

- (1) 岐阜県中部の山間部を中心にひろがる多雨区では、梅雨や秋雨の時期など、前線が活発になる時降水量が多くなる。
- (2) 飛騨の北西部にある裏日本気候区に近いところでは、冬の時期に降水量が多くなる。これは、降雪が原因であろう。
- (3) 岐阜市付近の表日本気候区では、夏の降水がおおく、冬の降水が少ない。

資 料

資料として、図 43 - 2 を高度別色分けしたものを右に記す。

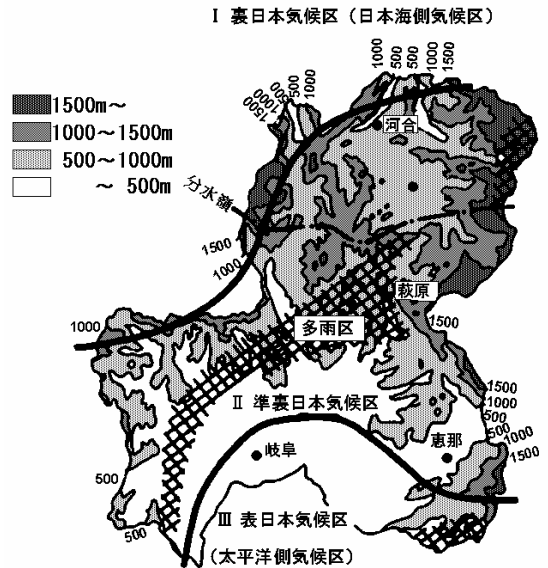


図 43 - 2 岐阜県の気候区分(実線は境界)

評 価

評価規準の例

| 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 観察・実験の技能・表現 | 知識・理解 |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・実験に対し、意欲的に参加していたか。作業を通じて、岐阜県の地域の違いに関心を持てたか。地域の気候の違い科学的に考察する態度を見せたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作成した地図、グラフなどから考察し、特徴をまとめられるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高度分布のコンターマップが作成できるか。Y 方向に 2 軸をとったグラフを作成できるか。作成した図やグラフから、地域の気候の違いを読み取ることができるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の地形の特色が理解できたか。気候の特色が理解できたか。 |

メ モ
